

こしき岩会会員の皆様

今年はコロナウィルスの影響で、今まで体験したことがない緊急事態宣言が発令され、日々の生活や人との触れ合いを制限されるなど不安な生活を強いられています。

このような状況の下で、卒業生の皆様は無事にお過ごしでしょうか。

本来なら総会・懇親会を開催する予定年でありましたが、コロナ禍により開催を中止にしたことはやむを得ないとしても残念でした。

さて、このたび『こしき岩会の解散』を提案させて頂き、会員皆様のご意見を伺いたいと思います。提案内容につきましては、以下に詳細をお知らせします。

学校法人夙川学院は今年で創立140周年、短期大学は創立55周年を迎える歴史を刻んできました。同窓会こしき岩会も短大に寄り添って活動してきましたので、早53周年を迎えることになりました。振り返りましたら、1965年に短期大学を開学。48年後の2013年に短大存続が難しい状況に陥り、児童教育学科のみを残して西宮市夙岩町から神戸市のポートアイランドにキャンパスを移転。約6年後の2019年に夙川学院短期大学から神戸教育短期大学と名称変更、更にキャンパスを神戸市長田区に移転して現在に至っています。短大が波乱な状況の中でも同窓会として、できるだけの協力をしながら共に歩んできました。

来年の卒業予定者の内、約70名の学生が夙川学院短期大学名で卒業する最後の年度になります。

夙川学院短期大学名が消えてしまうのは卒業生として寂しさを感じるものがあります。

では、本件に入る前に役員の日ごろの活動等についてお知らせいたします。

【役員者の活動内容】

- ・役員会の開催（毎月1回以上は開催）
- ・個人情報の管理（業者とのやり取り、短大からの利用依頼の処理など）
- ・ホームページの更新
- ・夙凛祭の参加（大学祭時にバザーや模擬店を出店）
- ・総会、懇親会の開催
- ・卒業記念品と会長賞の授与
- ・式典への参列、短大の評議員会への出席
- ・その他

【在学生への活動】

- ・学生便覧に同窓会の活動内容と短大に入学された時点でこしき岩会の準会員となり、卒業と同時に正会員になると同窓会の存在と学生の立場を告知しています。
 - ・同窓会費（2万円）のお知らせは、学生募集要項の授業料ページに同窓会費を2回生後期に別途徴収する事を記載しており、また「後期学費等の口座振替について」の案内にも同窓会費を記載して短大から学生宅に送付して頂いています。
 - ・毎年、夙凛祭に同窓会としてバザーや模擬店を開き、同窓会の存在をアピールしています。
 - ・卒業式には、短大からの推薦で学生生活を有意義に過ごした学生1名を称え、「会長賞」として賞状と記念品を授与しています。
- 卒業生全員に卒業祝いの記念品と「正会員のしおり」を配布しています。

夙川学院短期大学こしき岩会の今後について

1. 提案内容

現役員が長年固定化され体力的に限界がきていることと、同窓会費を短大が代理徴収しないとの決定を受けて本会を現状のまま存続させることは困難であると判断し、ここに「こしき岩会の解散」を提案いたします。

解散は決定ではありません。現役員ではこのまま役員を続けていくことは無理ですが、役員を引き受けてくださる方がおられるなら同窓会活動を継続して頂きたいと思います。

2. 経緯と理由

(経 緯)

- ・発端は今年の4月末、コロナで非常事態宣言が発令された時期に学長から全学生に現金支給の援助を同窓会に依頼。
- ・こしき岩会として過去多額の寄付(四大設立時に3千万円・ポーアイ移転時に3千万円・その他数々の援助)を行い、その寄付が生きることなく現在に至っているという寄付経緯の払拭できない心情と本会の資産を考えて断りの返答。
- ・学長から「救済奨学金」の名目で二度目の援助依頼を受け、役員会で検討の結果、断る。
- ・その後、短期大学では学生にせめてもの支援として、学友会費と後援会費の未徴収の決定。同窓会も同窓会費の未徴収を決定。
- ・これを機会に今後短期大学としては同窓会費の代理徴収はしないと連絡を受ける。
- ・短大に代理徴収を依頼しなければ同窓会としての活動が成り立たなくなる。
- ・後援会費を再び徴収される時には現状同様に同窓会費の代理徴収をお願いしたい旨返答。
- ・今後、同窓会費は学生の任意で徴収すべきだと提案された。

同窓会費を徴収しない行為は、学生支援と受け止めていないと言われましたが、役員の方持ちは支援に変わりはありません。ホームページには在学生会と会員の皆様に支援させて頂いたことのお知らせを挙げました。

(理 由)

時代の流れもあり同窓会の存在意義が変わりつつあります。

本会の入会を任意にした場合、終身会費2万円に値する活動内容と納得する学生は、少ないと想像できます。

本会は数年前に、郵送料と役員の負担を考えて会報誌の発行を中止しホームページに切り替えました。卒業後、短大の状況や同窓会の活動内容は、いつでもホームページで知ることが出来ます。総会や懇親会を開催しても、若い卒業生の出席は皆無です。それだけ同窓会活動への関心が薄れていると言えます。懇親会に参加しなくても、会いたい友とはいつでも簡単に連絡を取れる時代になっているのも理由の一つになっていると思います。

現在のような組織としての同窓会を維持していくならば、卒業生全員が同窓会に入会してこそ成り立つものだと思います。そのためには入会や同窓会費の徴収はある意味強制的であるべきだと思います。現在の役員は13名で長年同じメンバーで活動をしてきました。今以上に、魅力ある同窓会活動内容を企画し、それを在学生にアピールしていくとなると、役員の負担が大きくなります。高齢となりつつある役員にとっては今の活動内容でも負担が生じています。これまでに若い力を同窓会に取り込みましたが、望む様な結果に至りませんでした。

短期大学の協力を得られなくなった今、役員一同は気持ちの糸が切れ運営面や心理面において限界に近づきつつあると感じ、本会の解散を提案致します。

3. これからの進め方

- ①同封致しましたハガキで会員の皆様のご意見をお聞かせください。 (2021年1月末日締切り)
- ②そのご意見を元に今後の同窓会の方向性を役員会で決定します。
- ③その決定事項をもって、総会でご報告をしたいと思います。

突然のお知らせで驚かれたと思います。どうか皆様の率直なご意見をお聞かせ下さい。
宜しくお願い致します。

同窓会 こしき岩会
役員一同